

第17回 市長対談

地域社会の結い直し

市たるみ老人福祉センター



三重県社会福祉協議会会長
井村 正勝 さん

津市長前葉 泰幸

8月20日、津市たるみ老人福祉センターに三重県社会福祉協議会会長の井村正勝さんをお迎えし、地域福祉の活性化について、前葉泰幸市長がお話をお伺いしました。

市長 井村さんは、井村屋製菓で長く社長を務められ、その後、三重県教育委員会委員長などの公職を経て、このたび三重県社会福祉協議会の会長に就任されました。就任のあいさつで、「地域社会の結い直し」という言葉をお使いになりましたね。

井村 少子高齢化社会が進む中で、重要となるのが地域社会の再構築だと思います。さまざまな人々のつながりをそれぞれの地域に合った形にするため、既成事実にとらわれることなく、新しく地域社会をどう描いていくか、それを「地域社会の結い直し」という言葉で表現しました。

市長 福祉に関していえば、来年4月から介護保険制度が見直され、子ども子育て支援新制度が始まります。それを受けて、津市でも介護予防事業を実施し、子育て支援計画を策定するなど、市町村の役割はどんどん強化されていきます。それに先立ち、今年度津市では「地域福祉活動補助金の創設」「津市地域福祉政策会議の設置」「敬老事業の見直し」「津市地区社協連絡協議会の設置」という4つの地域福祉推進体制の

強化に取り組みました。

井村 津市が地域と連携し、地域福祉活動をしっかり支えることで、地域の独自性が生かされると思います。数ある課題の中で、なぜ、この4つの強化に取り組みられたのですか。

市長 1つ目の地域福祉活動補助金の創設は、津市社会福祉協議会の事業や運営のための補助金です。社会福祉協議会とは社会福祉法第109条および110条に規定された地域福祉活動や地域福祉を推進する地域密着型のきめ細かな福祉サービスを提供する組織です。この組織を運営するためには費用が掛かるため、津市では補助金を交付しています。これまでは運営事業補助金として約3億9,000万円を一括して交付していましたが、これを各種事業に対する補助金約2億5,000万円と、運営に対する補助金約1億4,000万円とに分けて交付することにしました。事業部分と運営部分をきちんと区分することで、津市社会福祉協議会が地域福祉活動の推進主体であることを明らかにしました。

井村 これまで一括で交付していた補助金を